

# ともい育たん

## 「にんげんばんじさいおう うま人間万事塞翁が馬うま」 校長 鈴木 伸和

本日、今年度の修了式を迎えることができました。

この一年間、本当にお疲れ様でした。この一年を振り返り、毎日楽しく学校生活を送れた人もいれば、様々な理由で、そうでない気持ちを抱えた人もいるかもしれません。人は、一度落ち込むと、その不幸がいつまでも続くように感じてしまいがちです。そんな時こそ、「人間万事塞翁が馬(にんげんばんじさいおうがうま)」という諺を思い出してほしいと思います。

この諺は、「人生における幸不幸は予測しがたい」という意味です。長い人生の中では、楽しいことや嬉しいこともあれば、辛いことや悲しいこともあります。しかし、何が幸福で何が不幸かは、すぐには決まりません。一見悪い出来事が良いことにつながったり、反対に良いと思えたことが悪い結果を招いたりすることもあるからです。

私たちは、失敗したり、うまくいかなかったりすると落ち込みますが、その経験こそが、次のステップへの成長につながったり、成功のきっかけになったりすることがあります。たとえ今はうまくいなくても、しっかりとした気持ちを持ち続け、努力を続ければ、必ず道は開けます。逆に、うまくいっている時こそ、謙虚さが大切です。成功に驕り、自慢したり吹聴したりすることが、かえって失敗の原因になることもあります。好調は永遠には続かない、とも言えるでしょう。

私たちは、この事実を知っていることで、うまくいかない時でも「次はきつとうまくいく」と頑張れますし、うまくいっている時でも「いつかうまくいなくなるかもしれない」と謙虚になれるのです。人の成長とは、一直線ではなく、曲線のように浮き沈みを繰り返しながら、結果として右肩上がりに進んでいくものだと考えます。

人生には、程度の差こそあれ、必ず浮き沈みがあります。そして、この上り下りを繰り返す中で、人は磨かれ、大きく成長していくのです。

だからこそ、順風満帆な時に驕る必要はありませんし、困難な状況にある時に悲観する必要もありません。要は、いつも素直な心と朗らかな気持ちを忘れず、希望をもって生きていくことが何よりも大切なのです。

今年度の学びが終了しました。一年間で浮き沈みを経験した皆さんもいると思いますが、それこそが皆さんの成長の証です。その経験をしっかりと受け止め、新たな気持ちで新学期の 4 月を迎えてくれることを期待しています。